

ConCALL 2016 (2nd Bi-Annual Conference on Central Asian Languages and Linguistics)

大会報告

2016/10/07-09

Indiana University of Bloomington

報告者：山田洋平（東京外国語大学博士後期課程）

1. 大会の概要

インディアナ大学の CeLCAR (the Center for Languages of the Central Asian Region) 主催による大会で、2014 年春に行われた第一回大会に続く第二回目の開催となる。中央アジアの諸言語につき、個々の言語現象の研究から言語教育までを結びつけることが目的。今回は「中央アジア言語共同体を強固に」。

大会の様子は公式ページにて。プログラム、配布されたハンドアウトも閲覧できる。個別の発表や基調講演も動画で配信されている。 → <http://www.iub.edu/~concall/index.html>

エントリー数 70 件（前回並み） 口頭発表件数 19 件（前回 28 件）
ポスター発表 7 件（前回 12 件予定） 会場数は 2→1



2. 基調講演

Arsalan Kahnemuyipour, University of Toronto エザーフェ構造—ペルシャ語、そして—

Silvina Montrul, University of Illinois 「異なる」「違った」「変わった」言語の習得

Barış Kabak, University of Wurzburg 多面的現象としてトルコ語ストレスを明らかにする

Marcel Erdal, Goethe University テュルク語族の諸言語は今とどのように違ったか

György Kara, Indiana University モンゴル語族の研究から学んだこと

3. 発表や講演で扱われたテーマ分布

	音声	語彙	動詞	名詞	文法他	教育	その他
イラン語派		1	1	2	1		
アルメニア語	1						
グルジア語			1				
チベット語派			1	1			
テュルク語族	4	4	3		1	4	1
モンゴル語族			1				2
その他						2	
合計	5	5	7	3	2	6	3

カザフスタンからの参加者が多かった印象。教育関係はポスター発表に集中。

分野は多方面に渡る。個別の口頭発表では質疑に十分な時間を取る方針だった。